

平成 28・29 年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校
租税教育の実際



鹿児島市立鹿屋中学校

目 次

I はじめに

- 1 鹿屋市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 校区の概要
- 3 学校の概要

II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 研究主題設定の理由
 - (1) 生徒の実態から
 - (2) 学校教育目標より
 - (3) 社会の要請から
- 3 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 租税教育の全体計画
- 5 研究の経過及び予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

III 研究の実際

- 1 アンケートの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 租税教室の開催
 - (1) 平成28年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) 平成29年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 各教科等の取組
 - (1) 社会科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - (2) 国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - (3) 特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - (4) その他の教科との関連・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 4 税の作文コンクールへの応募・・・・・・・・・・・・ 20
- 5 生徒会活動の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

IV 研究の成果と課題

- 1 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 2 今後の課題

V おわりに

I はじめに

1 鹿屋市の概要

本市は、大隅半島のほぼ中心部に位置しており、市域は東西 20km、南北 41km に及び、人口は 102,956 人(平成 29 年 8 月 1 日現在)、面積は 448.3 ㎢である。

また、本市は大隅半島の行政・経済・産業の中核となる都市で、特に温暖な気候と豊かな自然を活かした農業・畜産が盛んであり、黒豚やブロイラー、落花生、サツマイモなどが特産品である。さらに、市花であるバラを生かしたまちづくりを推進しており、「かのやばら園」には、毎年多くの観光客が訪れている。



2 校区の概要

本校区は肝属川が流れ、市の中心部に位置している。学校は閑静な高台にあり、自然にも恵まれている。学校は、昭和 22 年に「祓川中学校」として開校し、昭和 29 年に「鹿屋中学校」に校名を変更して現在に至っている。その後、生徒数の増加により、昭和 62 年 4 月に鹿屋東中学校と分離した。生徒は、4 小学校（鹿屋小、祓川小、東原小、大黒小）から入学してくる。校区内には、県大隅地域振興局本庁舎や市役所その他の教育機関、体育・文化施設もあり、環境的に恵まれている。

3 学校の概要

本校は、現在、生徒数 314 名（11 学級で特別支援学級 2 学級を含む）の中規模校である。学校教育目標に「ともに豊かに生きぬく生徒を育成する。」を掲げ、校訓である「自主・自律・協調」を達成するために日々の教育活動に取り組んでいる。特に、「気づき・考え・実行する」生徒の育成を目指して、生徒会活動や生徒の有志からなる SAT プラス（先手あいさつ隊）、学級リーダー会など生徒の主体的な活動を促し、リーダーを育成することに力を入れている。



また、生徒は明るく素直な生徒が多く、生徒会活動では、「朝のあいさつ運動」や「立ち止まりあいさつ」、始業時の「2 分前着席黙想」、清掃作業時の「黙々清掃」などに取り組んでいる。さらに、体力向上を図るために早朝からの「朝トレーニング」や部活動に積極的に参加している生徒も多い。

II 研究の概要

1 研究主題

租税教育を通して、生徒が租税に対する正しい知識と理解を深め、興味・関心をもって主体的に取り組む態度を育成する。

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

これまで、社会科を中心に租税教育に取り組んできたが、生徒の租税に対する興味・関心の高まりをあまり感じられず、むしろ租税に対して誤った認識をもっている生徒もいる。日本の財政や税制のしくみについては、3年次の公民的分野で学習するが、学習する時数が少なく、租税に対する正しい知識と理解を深めるまでに至っていないのが現状である。そこで、社会科を中心に他教科や学級活動、生徒会活動、学校行事等を通して租税教育に取り組み、生徒に租税に対する正しい知識と理解を深めさせる手立てを講じる必要があると考える。

(2) 学校教育目標より

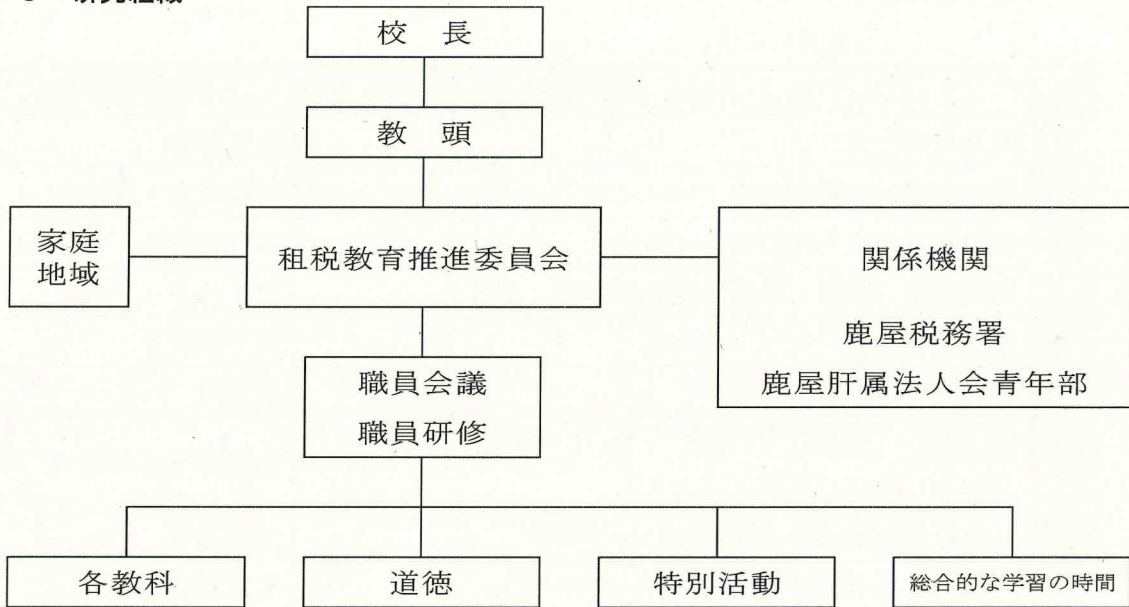
本校は、「ともに豊かに生きぬく生徒を育成する。」という学校教育目標を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。この目標を実現するためにめざす生徒像として、「自らの課題を見つけ、意欲的に学ぶ生徒」、「目標を持ち、主体的に物事に取り組む生徒」、「相手の立場に立って考え、行動できる生徒」を育成することである。租税教育の推進を図る上で、生徒が租税に興味・関心をもって主体的に取り組む活動を行うことは、学校教育目標の達成にもつながると考える。

(3) 社会の要請から

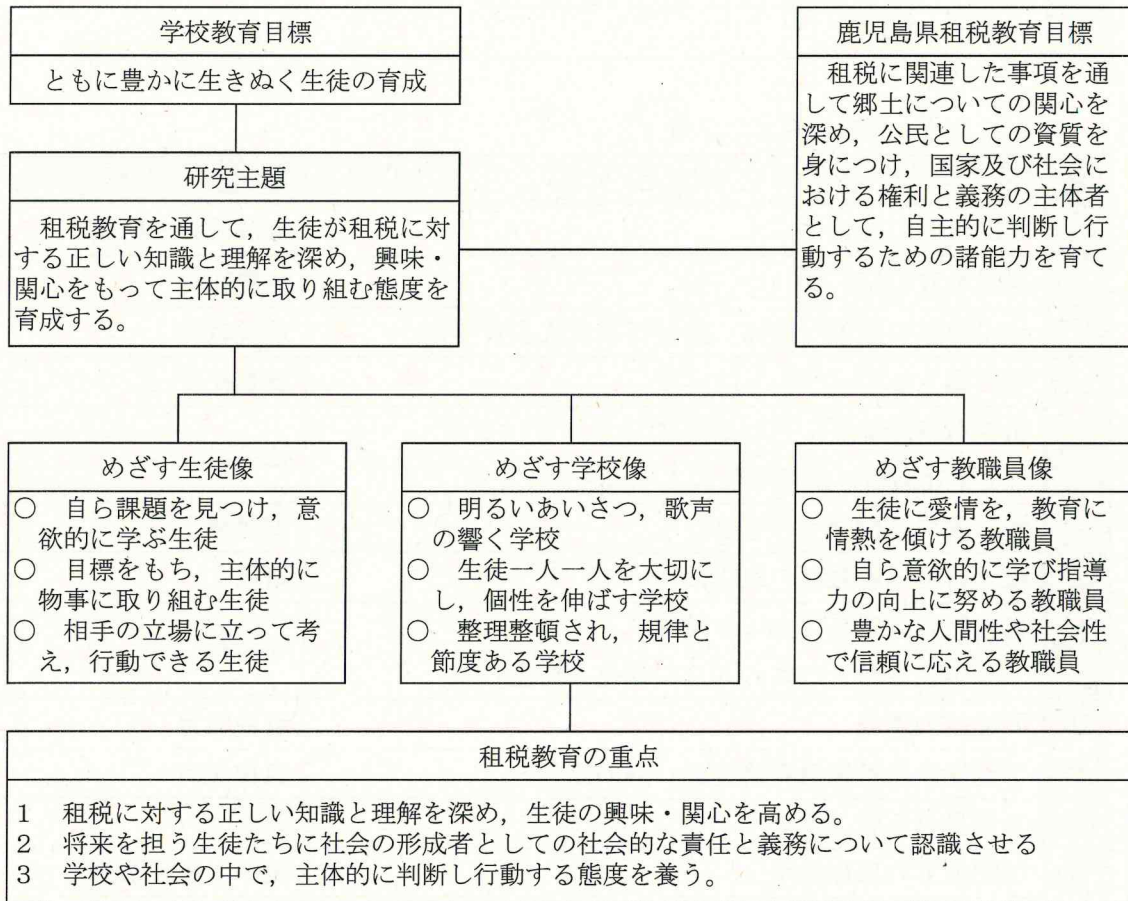
現代社会において、情報社会やグローバル化が進む中で、確かな学力、心豊かな人間性、健やかな体の調和を図る「生きる力」が、ますます重視されている。このように目まぐるしく変化する社会に適切に対応する力を身につけさせるためにも、その方法の一つとして租税教育を進めていく必要があると考える。鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土についての関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」ことをねらいに置いている。つまり、租税教育を推進していくことは、生徒が郷土を見つめ、社会の一員として主体的に判断し行動する力を養い、生きる力を育成することにつながると考える。

以上のことから、租税に対する知識と理解を深める機会を設定し、租税に関する様々な活動に取り組むことで、生徒の興味・関心が高まり、主体的に判断し行動できるようになるのではないかと考え、この主題を設定したのである。

3 研究組織



4 租税教育の全体計画



5 研究の経過及び予定

平成 28 年度 租税教育年間計画（1 年目）

月	内 容	担 当
5	研究委嘱を受ける	租税教育
6	研究主題・計画の決定	租税教育・研修
7	租税教育の打ち合わせ	租税教育
	租税教室の開催（講師 鹿屋税務署 満永さん）	租税教育
	税に関するアンケートの実施	調査統計
	税に関する作文への応募	国語科
8	職員研修（租税教育の進め方等）の開催 （講師 鹿屋税務署 満永さん）	租税教育・研修
10	「租税教室講師養成研修会」への出席	租税教育
11	「鹿児島県租税教育研究会」への出席	租税教育
12	租税教育の視点に立った授業 （3年社会科「租税のしくみ」	社会科
1	租税教育に関する校内放送の開始	租税教育
2	1年目の反省	研修

平成 29 年度 租税教育年間計画（2 年目）

月	内 容	担 当
4	年間計画の確認	租税教育・研修
6	租税教育の打ち合わせ	租税教育
	租税教室の開催（講師 鹿屋肝属法人会青年部）	租税教育
7	税に関するアンケートの実施	調査統計
	租税教育の視点に立った授業 （1年社会科「奈良時代の人々の暮らし」	社会科
	税に関する作文への応募	国語科
8	職員研修（各教科の取組について）	研修
9	租税教育の視点に立った授業 （2年社会科「日本の人口の変化と特色」	社会科
10	研究誌の作成	租税教育
11	「鹿児島県租税教育研究会」への出席	租税教育
2	2年目の反省	研修
通 年	租税教育の広報掲示	掲示・租税教育
	租税教育に関する校内放送（月2回）	租税教育

Ⅲ 研究の実際

1 アンケートの実施

租税に対する生徒の実態を把握するために、平成28年、29年（ともに7月実施）の2回にわたりアンケート調査を実施した。アンケート内容については、経年変化を見るために現2年生、3年生を対象にし、同じ内容で調査を行った。

結果を分析すると、質問1「税について興味・関心がありますか。」という問いに対して、昨年度と比較して「ある」、「少しはある」と答えた生徒が、現2年生、3年生ともに60%を超え、税に興味・関心が高まった生徒が増えていることが分かった。質問2「税について、家庭で話をすることがありますか。」という問いに対しては、「よくある」、「時々ある」と答えた生徒が、現2年生で20%を下回り、税に関することが家庭での話題づくりに至っていないことがわかった。質問3「税を納めることについてどう思いますか。」という問いに対しては、「納めるべき」と答えた生徒が、現2年生、3年生ともに80%を超えて上昇し、納税に対する意識が高まり、税金の必要性を感じている生徒が増えたことが分かった。質問4「税について学習することは必要ですか。」という問いに対しては、「とても必要」、「必要」と答えた生徒が1回目の調査から現2年生、3年生ともに80%を超え、租税教育に取り組んだ当初から、税の学習の必要性を強く感じていたことが分かった。質問5「税金が私たちの生活に役立っていますか。」という問いに対しては、「感じる」と答えた現3年生で割合が減少していた。

各質問項目から見えてきたことは、生徒の税に対する興味・関心が高まり、納税の意義を理解できている生徒が増えた一方で、地域や家庭との連携が、不十分であることが浮かび上がってきた。

《アンケート用紙》

税金に関するアンケート

・ 質問1～5について最もあてはまる語句を○で囲みなさい。

1 税について興味・関心がありますか。

(ある ・ 少しある ・ あまりない ・ まったくない)

2 税について家庭で話をすることがありますか。

(よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ まったくない)

3 税を納めることについてどう思いますか。

(納めるべき ・ 仕方なく納める ・ どちらでもない)

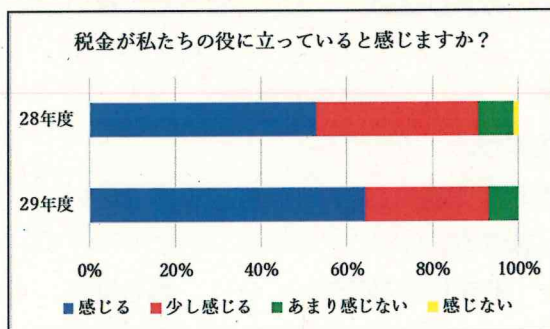
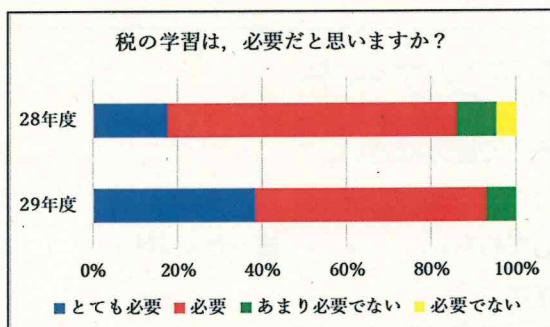
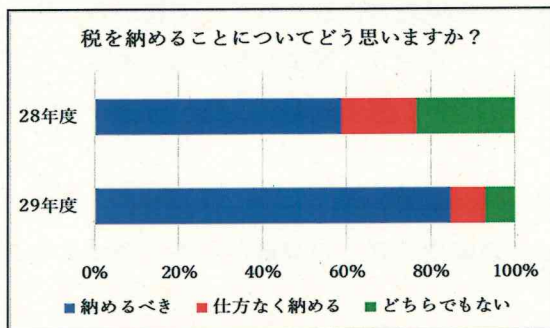
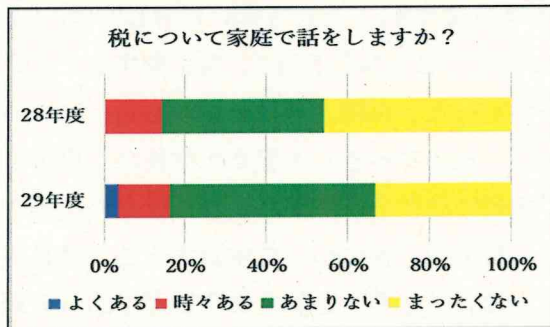
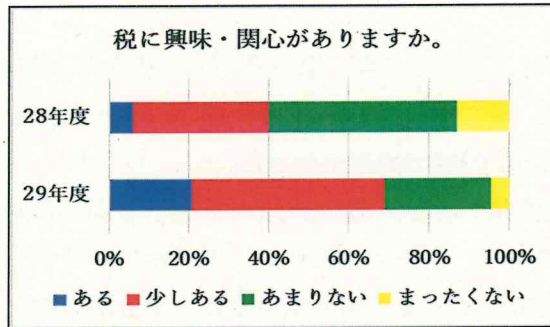
4 税について学習することは必要だと思いますか。

(とても必要 ・ 必要 ・ あまり必要でない ・ 必要でない)

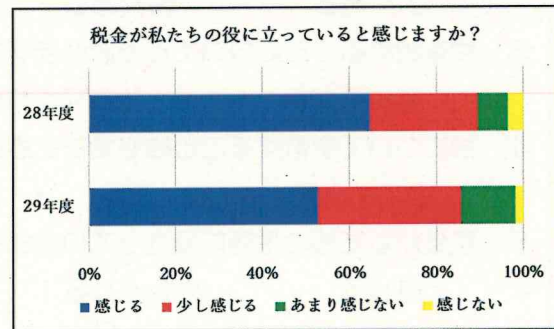
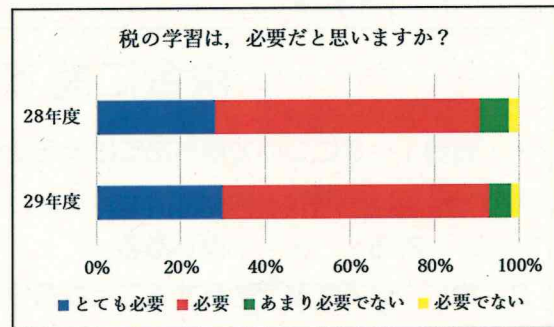
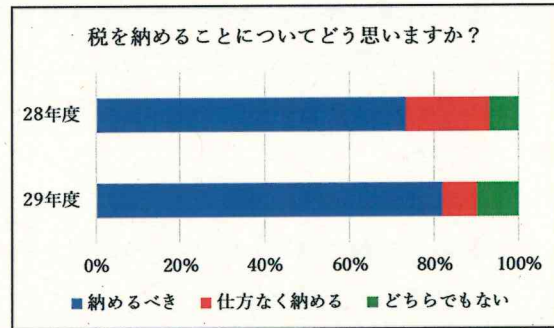
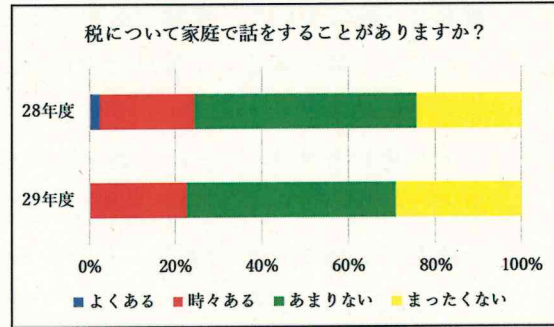
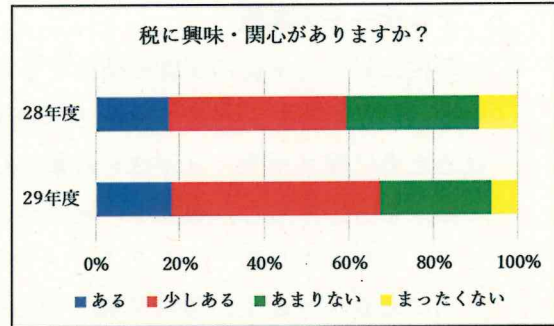
5 税金が私たちの生活に役立っていると感じますか。

(感じる ・ 少し感じる ・ あまり感じない ・ 感じない)

《現2年生の変化》



《現3年生の変化》



2 租税教室の開催

(1) 平成28年度租税教室

研究委嘱を受けて、初めての租税教室を平成28年7月15日に開催した。今回は、生徒に広く租税のしくみや意義を正しく理解してもらうことを重視したいと考え、全校生徒を対象に租税教室を行うことにした。租税教室では、鹿屋税務署の方を講師に招いて、税金のしくみについて分かりやすく説明してもらい、DVDの視聴を通して、「もし、税金がなかったらどのような社会になるか。」ということ想像しながら、生徒が税金を身近なものとして捉えて考えることができたように感じた。その後、税金に関するアンケートを実施することで、生徒の税金に対する考え方について実態を把握することができた。

租税教室実施計画（案）

1 ねらい

- (1) 租税の意義や役割を正しく理解させる。
- (2) 社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持たせる。
- (3) 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

2 期 日

平成28年7月15日（金） 14:50～16:00

3 場 所

本校体育館 男女各一列で全校朝会の隊形

4 対 象

全校生徒（320名）

5 実施内容

- (1) はじめの言葉
- (2) 講師紹介（鹿屋税務署 満永将太さん）
- (3) 税の種類やしくみなどに関する講話
- (4) 生徒代表お礼の言葉
- (5) おわりの言葉
- (6) 感想、アンケート記入（各教室） 15:40～

《本時の展開》

過程	学習活動	指導上の留意点, 資料
導 入 (5分)	1 本時の授業の趣旨を説明し, 講師の紹介をする。	
展 開 (35分)	2 税金クイズをする。 (例) 日本には, 何種類の税金があるでしょう。 3 DVDを視聴する。 4 講師の話を聴く。 5 1億円のレプリカを持って, 金額の大きさを体感する。	<ul style="list-style-type: none"> 講師が出題した税金3択クイズに挙手して答えさせる。 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」 もし, 税金がなかったらどうなるかを考えさせる。 税金の必要性や中学校では, どんなことに税金が使われているのか考えさせる。
終 末 (10分)	6 今日の授業を通して, 意見や質問を発表する。	



1億円のレプリカをもって, お金の重さを体感しているようす

(2) 平成29年度租税教室

研究委嘱を受けて2年目は, 平成29年6月30日に開催した。租税教室が2回目となる今回は, 学年をしぼって3年生を対象に租税教室を行うことにした。3年生は, 社会科の公民分野で税のしくみを学習するので, その前に税のしくみを学び, 社会科学習につなげたいと考えた。また, 税のしくみをより深く学ぶためにワークショップ型の授業を取り入れたいという考えもあった。

租税教室では, 鹿屋肝属法人会青年部会の方を講師に招き, DVD「大臣になった男」を視聴して, もし自分が財務大臣になったら, どのような財政に取り組むかをグループで話し合い, 意見を出し合って発表した。

租税教室実施計画（案）

1 ねらい

- (1) 租税の意義や役割を正しく理解させる。
- (2) 社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持たせる。
- (3) 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

2 期 日 平成 29 年 6 月 30 日（金） 6 校時（15：10～16：00）

3 場 所 本校体育館

4 対 象 3 年生

5 実施内容

- (1) はじめの言葉
- (2) 講師紹介（鹿屋肝属法人会）
- (3) 税に関するワークショップ型学習
- (4) 生徒代表お礼の言葉
- (5) おわりの言葉

《本時の展開》

過程	学習活動	指導上の留意点, 資料
導 入 (5分)	1 本時の授業の趣旨を説明し、講師の紹介をする。	
展 開 (40分)	2 DVDを視聴する。 3 グループ活動を行う。 ・ あなたが、財務大臣になったらどのような財政を行いますか。 ・ 国債を減らすためには、どうすればよいと思いますか。 4 グループリーダーが発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVD「大臣になった男」 ・ なぜ税金や財政が必要なのかDVDを視聴した感想を発表させる。 ・ グループを9つに分けて、日本の財政について考えさせる。 ・ 各グループにコーディネーターとして鹿屋肝属法人会メンバーに入ってもらおう。 ・ 広幅用紙にまとめたアイデアを全体に発表させる。
終 末 (5分)	5 講師の話を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の財政問題について、一人一人が考えていくことが重要であることを伝える。

租税教室を実施する前に、鹿屋肝属法人会青年部会の方と事前打ち合わせを行い、当日の租税教室に向けて、生徒が税金について興味や関心を高めるためにどのような取組が必要なのか、意見を出し合いながら準備を進めていった。



事前打ち合わせのようす

《租税教室の活動のようす》



DVD「大臣になった男」視聴



グループによる話し合い



鹿屋肝属法人会の方による説明



グループの意見をまとめる



グループの意見を発表



全体のまとめ

租税教室の当日は、20名を超える鹿屋肝属法人会青年部会や鹿屋税務署の方々が来校して実施された。DVDを視聴した後、3年生(120名)が9つのグループに分かれ、鹿屋肝属法人会青年部会の方々がグループ活動を手助けするコーディネーターとして参加した。グループ活動では、国の歳出が増加する一方で、歳入が伸び悩んでいることを示したグラフをワニの口に例え、ワニの口を閉じるためにどうすればよいかを生徒自身が財務大臣になったつもりで、具体案を話し合った。各グループとも積極的な意見が交わされ、出てきた意見を広幅用紙にまとめていった。その後、グループリーダーがまとめた意見を全体の場で発表し、財政を立て直すためにさまざまな考え方があり、お互いに共有することができた。

《発表で出された主な提案》

- ・ 少子高齢化問題に対して、厚い子育て支援を行う。
- ・ 税収を上げるために定年退職年齢を引き上げる。
- ・ 職業訓練施設等を充実させて働く人を増やす。
- ・ たばこ税や酒税，所得税を上げる。消費税を20%に引き上げる。
- ・ 富裕層の税負担を重くする。
- ・ ノートのタブレット化を進め、紙を減らして節約する。
- ・ 日本文化を世界に広めて日本に来る観光客を増やし、外貨をかせぐ。
- ・ 学校施設(体育館，プールなど)を近くの学校同士で共有して節約する。

活発に意見を出し合う生徒たち 鹿屋中学校



財務大臣「体験」
税の大切さ学ぶ

鹿屋中

鹿屋市の鹿屋中学校で6月30日、鹿屋肝属法人会青年部会の租税教室があった。3年生120人が、財務大臣

になったつもりで税収を上げる手だてを考え、租税の大切さを学んだ。

税を通して国や社会のあり方に思いを寄せてもらおうと開催。歳

出が伸び続ける一方で収入(税収)が伸び悩み、その差がワニの口のように開いている国家財政について説明を受けた後、グループに分かれてワニの口を閉じるためにはどうすべきか話し合った。

財務大臣に「就任」した生徒たちは、青年部会のメンバーがふるする事務次官のサポートを受け、「輸出を増やして輸入を減らす」「富裕層の税負担

を重くする」など国家的見地から意見を述べた。少子高齢化を解消して社会保障費を減らすといった社会構造に切り込む鋭い意見もあり、討議は白熱した。

大山幸之助君は「税を身近に感じ納税の必要性を理解できた」。同部会租税教育委員長の福満成一郎さん(41)は「いいアイデアが続出した。学んだことを地域の未来のために生かしてほしい」と話した。(黒田昌平)

2017年(平成29年)

7月8日(土)

『南日本新聞』より

3 各教科等の取組

(1) 社会科

租税教育の視点を通じた授業展開例①

「これからの消費税を考えよう」(公民的分野)

ア 本時の目標

- ① 消費税に関する議論をもとに国の財政や社会保障問題を多面的・多角的に考え、その過程や結果を表現している。(社会的思考・判断・表現)
- ② 資料を根拠にした論理的な理由をもとに議論を行い、よりよい結論を導くために、仲間と協力して意見をまとめている。(資料活用の技能)

イ 指導の実際(6/6)

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 日本の税の種類について復習する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税の種類について復習し、中学生も納めている消費税について関心を高めさせる。 ・ 学習課題を提示して、課題を明確にする。
	2 学習課題を確認する あなたは、消費税の増税に賛成ですか、反対ですか。		
展開	3 消費税の増税について、賛成または反対の意思を明確にして、自分の考えをまとめる。(ワークシート1)	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税の増税について、自分の考えをもつに至った根拠や背景を明らかにした上で意思表示させる。
	4 賛成または反対について挙手し、自分の考えを発表する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体場で意思表示させ、数名の生徒に自分の考えを発表させる。
	5 グループ内で資料をもとに消費税についての様々な視点をもって話し合う。(ワークシート2) 【話し合いの視点】 直間比率、税の公平性、将来の人口、財政状況、景気の影響、外国との比較	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料をもとに自分の考えをグループ内で発表させる。意見が一方に偏った場合は、それぞれの立場の意見を話し合うように指示する。
	6 グループとしての意見をまとめ、発表する。 【生徒の反応】	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループの代表者にグループ内の意見を1つにまとめて発表させる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化が進み、労働人口が減少すれば消費税の増税はしかたがないから賛成。 ○ 所得の高い人と低い人が同じ税率で税金を納めるのは公正でないから反対。 			

終末	7 これまでの議論をふまえ、消費税の増税について、再度の自分の意思を明確にする。(ワークシート3)	5分	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を通して最初の立場と異なった生徒がいたら、考えが変わった理由を発表させる。
----	---	----	---

ウ 評価

- ① 消費税に関する議論をもとに国の財政や社会保障問題を多面的・多角的に考え、その過程や結果を表現していたか。
- ② 資料を根拠にした論理的な理由をもとに議論を行い、よりよい結論を導くために、仲間と協力して意見をまとめていたか。

《使用したワークシート》

これからの消費税を考えよう 組 番 名前

1 あなたは、消費税の増税に賛成ですか、反対ですか。(最初の判断)

(賛成 反対)

《理由》

<div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div>
--

2 グループ内で出た意見をまとめよう。

	理 由	根拠となった資料名
賛 成 ()人		
反 対 ()人		

3 あなたは、消費税の増税に賛成ですか、反対ですか。(最終判断)

(賛成 反対)

《理由》

<div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 20px;"></div>
--

《生徒から出された意見》

○ 消費税の増税に賛成意見

- ・ 日本は、間接税の割合がヨーロッパ諸国と比べて低いため、これから少子高齢社会がますます進んでいくことを考えると、直接税の所得税や法人税は得にくくなるから、大人から子どもまで支払う間接税の消費税を上げるべきだと思う。
- ・ 税金で集めたお金が社会保障に使われて、人々のよりよい暮らしにつながると思う。ただし、増税するときは、景気が良くなった時に行うべきだと思う。
- ・ 消費税の増税で商品の値段は上がるが、これ以上国の借金を増やしたくない。
- ・ イギリスを見習い、日用品はそのままの値段で、他の物の税を上げればいい。

○ 消費税の増税に反対意見

- ・ 所得格差が広がっている現代において、人々の負担が大きくなるのは、生活が不安定になり、消費意欲が減少するおそれがある。
- ・ 増税によって支払うお金が増えてしまうと家計が苦しくなる。
- ・ この先、増税を続けたら経済的な負担を理由に結婚しない人や子どもをつくらない家庭が増えると、少子高齢化がますます進むのではないかと思う。
- ・ これ以上消費税の負担を大きくしてしまうと商品を買いたい意欲がなくなり、国の収入も減ってしまうのではないか。

租税教育の視点を通じた授業展開例②

「律令制下の人々の暮らし」（歴史的分野）

ア 本時の目標

- ① 奈良時代の税のしくみから当時の社会背景を多角的・多面的に読み取り，考察することができる。 (社会的思考・判断・表現)
- ② 班田収授の法や租・調・庸のしくみについて知り，地方の農民にとって税が重い負担になっていたことを理解できる。

(社会的事象についての知識・理解)

イ 指導の実際(2/4)

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 復習問題を解く。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 律令国家のしくみや天平文化について確認する。 ・ 学習課題を提示する。
	2 学習課題を設定する。		
	律令国家のもとで、人々は、どんな生活をしていたのだろう。		

展開	3 現在の日本の税のしくみについて考える。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって身近な消費税を想起させる。 税金は、私たちの生活を支えるものであることに気付かせる。
	4 奈良時代の税のしくみについて調べる。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 資料集を参照させて税について調べるように指示する。
	5 税は、どんなことに使われていたのか話し合い、発表する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> 班長に出た意見を発表するように指示する。 貴族の食事や平城京の町並みから税が何に使われていたのか気付かせる。 現在の税金の使われ方と比較させる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【生徒の反応例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都に住む役人の給料になった。 貴族の食事に使われた。 都の建物や道路をつくった。 都での行事に使われた。 </div>		
	6 計帳に記された内容を読み取る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 計帳を拡大して黒板に示し、書かれている文字を確認しながら内容を読み取らせる。 「貧窮問答歌」も紹介し、重い税負担で、当時の農民が苦しい生活をしてきたことにふれる。
7 土地制度の変化について説明を聞き、ノートにまとめる。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 口分田が荒廃で税収が減少し、人口増加で口分田が不足したことで、朝廷が開墾を進めたことに気付かせる。 	
終末	8 奈良時代の人々の生活についてまとめる。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 当時の人々には、多くの税が課せられ、貴族と農民では、生活の格差があったことを振り返らせる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【生徒のまとめ例】</p> <p>農民は、たくさんの税を負担していたため、生活は苦しかった。また、貴族は各地から送られた品々によって豊かな生活を送っていた。</p> </div>		

ウ 評価

- 奈良時代の税のしくみから当時の社会背景を多角的・多面的に読み取り、考察することができたか。
- 班田収授の法や租・調・庸のしくみについて知り、地方の農民にとって税が重い負担になっていたことを理解できたか。



授業のようす

《使用したワークシート》

律令制下の人々の暮らし 組 番 名前

1 資料集P32を見て調べなさい。

(1) 右の表に税の種類の名称を
書きなさい。

(2) 右の表の②と③の税は、都
または大宰府まで運ばなくて
はならなかった。

① 現在の鹿児島から大宰府ま
でかかる日数は何日か。

日

② 現在の千葉県から納められ
ていた品物は何か。

--

種類	内容
① ()	稲の収穫高の3%
② ()	地方の特産物(絹、糸、布製品など)
③ ()	歳役(都での労役)のかわりに布
④ ()	国府で年間60日以下の労役
⑤ ()	九州北部の防衛(3年間)
⑥ ()	都で皇居の警備(1年間)

④ 税は、どんなことに使われていたのだろう。

あなたの意見	
班の意見	

3 奈良時代の農民や貴族は、どのような生活をしていましたか。

《生徒から出された意見》

質問：税はどんなことに使われていたろう。

- ・ 都の建物を建てるために集めた税が使われた。
- ・ 都で働く労働者の給料になった。
- ・ 貴族が生活するために食料や布などが使われた。
- ・ 国を守るための武器を買うために使われた。
- ・ 都で行われる儀式や行事のために使われた。

(2) 国語科

租税教育の視点を通じた授業展開例③

「資料や機器を効果的に活用してプレゼンテーションをしよう～テーマ「税」～」

ア 単元の目標

- ① 「税」について調べたことをわかりやすく伝えるために、資料や機器を効果的に使って話す。
- ② 異なる立場の考えを想定して自分の考えをまとめ、構成を工夫して説得力のある発表をする。

イ 指導の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	① これまでの学習を振り返り、本日発表する各班のテーマを紹介する。 例)・「税」の歴史 ・世界の「税」 ・「税」の種類 ・「税」のしくみ	3分	・これまでの学習の内容を振り返り、どのように伝えていくかのイメージをもたせる。
	② 本時の学習課題の確認 資料や機器を効果的に使った、説得力のあるプレゼンテーションとは、どんなものだろうか。	2分	・資料や機器がどのように「説得力のあるプレゼンテーション」と結びつくかを考えさせる。
展開	③ 発表の前にプレゼンテーションの最終打ち合わせをする。 ・班ごとに役割分担を確認する。 ・資料や機器の準備と確認をする。	3分	・簡単な打ち合わせや確認にとどめる。
	④ 聞く態度や評価についての説明を聞く。	2分	・「相互評価票」のワークシートを配布し、どのような視点で聞くかを確認する。
	⑤ プレゼンテーションをする。 5分間×6班→30分間	30分	・役割分担と時間配分を確認して、スタートさせる。
	⑥ 発表から学んだことや相互評価をまとめる。	5分	・「税」について学んだことと合わせて、どのような発表が説得力に結びついてきたか、自分が感じたことをまとめさせる。
終末	⑦ 次時の学習の予告をする。	5分	・次時の学習で「説得力のある発表」についてお互いに考え、話し合うことを予告する。

ウ 評価

- ① 資料や機器を効果的に使ったプレゼンテーションができたか。
- ② 説得力のあるプレゼンテーションという視点で発表を聞くことができたか。

(3) 特別支援教育

租税教育の視点を通じた授業展開例④

「決められた金額内で買い物をしよう」(教科名 生活単元学習)

ア 本時の目標

- ① ペアードで相談しながら、調理の材料を千円以内で買うことができる。
- ② 交通ルールと公共の場のマナーを守り、楽しく買い物をすることができる。

イ 指導の実際(2時間)

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1. 買う材料の確認をする。 2. 消費税の計算を復習する。 3. 本時の目標を確認する。 千円内で、買い物をしよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアードで活動することを確認する。 ・簡単な計算で、イメージできるようにしておく。 ・各ペアードにお金を渡す。
展開	4. 日程の確認をする。 ① 道順の説明 ② 時間の確認 ③ 買い物の手順 ④ 材料の収納 ⑤ 反省 5. 校外学習に出発する。 6. 買い物をする。 7. 材料を運ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ・右側通行や2列歩行など交通ルールも確認する。 ・往復の時間、買い物の時間等大まかな時間配分を板書する。 ・レジに並ぶ前に教師がチェックするようにする。 ・冷蔵保存が必要なものは気を付けさせる。 ・おつりと一緒にレシートも提出させる。 ・移動する時は、後方から声を掛けるようにする。 ・ペアードで活動できるように、極力見守る。 ・買った材料は、交替で持つように声をかける。
終末	8. 反省をする。 9. 次時の学習の予告をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・全員が一言ずつ感じたことを発表させる。 ・調理の準備を確認する。



買い物に行く



必要な商品を選択する



所持金から会計する

(4) その他の教科との関連

《英語科》

<p>単元名 (3年 Sunshine English Course 3 Program5 Sushi-Go-Around)</p> <p>ALTとのTT授業</p> <p>回転寿司屋が世界で増加している中で、ALTにフィリピンや韓国における日本食の広がりや価格などについて話をしてもらおう。その後、日本と世界の価格や消費税を比較させ、その違いに気づかせる活動を行う。</p>
--

《数学科》

<p>単元名 (1年 近似値と有効数字)</p> <p>食品や飲料に表示されている「0」と「0.0」の違いについて考えさせる。その際、商品価格から消費税を含めた価格を近似値で計算させる。</p>

《単元一覧》

教科名	単元名
国語	<p>【1年】○ 調べたことを整理して、わかりやすく (レポート)</p> <p>○ 論理で迫るか、感情に訴えるか (討論ゲーム)</p> <p>【2年】○ 資料や機器を効果的に活用する (プレゼンテーション)</p> <p>○ 異なる立場や考えを尊重して</p> <p>【3年】○ 情報社会を生きる—メディアリテラシー</p> <p>○ 故郷 (小説)</p>
社会	<p>(歴史) ○ 律令国家への歩み ○ 学問は身を立てる財本</p> <p>(地理) ○ 世界の諸地域～ヨーロッパ州～ ○ 日本の人口の変化と特色</p> <p>(公民) ○ 家計の収入と支出 ○ 財政のはたらき</p> <p>○ 国の収入を支える税と国債 ○ 税金を増やすことは必要か</p>
数学	<p>【1年】○ 近似値と有効数字 (食品や飲料の0や0.0の表示の意味)</p> <p>【2年】○ いろいろな確率</p>
理科	<p>【3年】○ 自然と人間 ○ 科学技術と人間</p>
英語	<p>【1年】○ Unit 4 ホームパーティー</p> <p>【2年】○ Daily Scene7 買い物</p> <p>【3年】○ Program5 Sushi-Go-Around</p>
技術家庭	<p>【1年】○ 食品の選び方を考えよう</p> <p>【3年】○ 消費税活について考えよう ○ 消費者としての自覚をもとう</p>
保健体育	<p>【2年】○ 健康と環境 (し尿・生活排水の処理, ごみの処理)</p> <p>【3年】○ 健康な生活と病気の予防 (喫煙, 飲酒, 薬物乱用)</p>
音楽	<p>【3年】○ 言葉や旋律の繰り返しを生かして～作詞をしよう～</p>

4 税の作文コンクールの応募

本校国語科では、「中学生の税の作文コンクール」に応募している。平成29年度は、租税教室を実施した3年生を中心に税の作文を書いてもらったため、前年度を大きく上回る応募数となった。次に紹介するのは、平成28年度に公益社団法人鹿屋肝属法人会長賞を受賞した大山幸之助くんの作文である。

税にふれたこの夏

2年 大山 幸之助

「よっしゃあ、県立鴨池球場で試合ができる。」

軟式野球の大会で試合をする機会がありました。そんなとき、こんなことを考えました。市立中学校や県立高校は、税金を使って造られ、学校に必要な道具なども、税金を使って買っているから、この県立鴨池球場も税金が使われているのではないかと思いました。調べてみると、県立球場などは、県民税いわゆる地方税や住民税が使われていることがわかりました。

この作文を書いていて新たに思ったことは、球場を造れるほどの金額があるのか。県民税は、一年でどのくらい集まるのでしょうか。鹿児島県の平成二十六年年度の歳入総額は、七千七百八十億五千六百二万七千円でした。このことから税金の力はすごいことがわかりました。そう考えると、県立鴨池球場の看板の上には鹿児島県のマークがありました。

いざ鴨池球場に入ってみると、普通の球場ではあまり考えられない、電光掲示板、整備されたベンチ、草一本も生えていない内野、きれいに整えられた芝生といったどれも感動するものでした。これも税金のおかげだと思うと、税金のありがたみ、偉大さがすごいなと思いました。ほかにある県立の施設を調べてみると、私が使ったことや、行ったことのある鹿屋市の県民健康プラザ健康増進センターやアジア・太平洋農村研修センターがありました。「県の施設で税金が使われているから、安く利用できたり、体験したりできるのだな。」と思いました。とくに、「霧島アートの森」や「黎明館」も県の施設なのでびっくりしました。芸術家の草間彌生さんの、大きくて奇抜な水玉のオブジェも税金がもとで設置してあると思うと親近感がわいて、「今度行ったときには、もっと大切にじっくり鑑賞しないとイケないなあ」と思いました。黎明館の展示物はきれいにしているので「税金の力ってすばらしいなあ」と思いました。

税金で管理、運営されている県立の施設はたくさんあって、私たちがよく利用することがあります。きれいに利用することで、税金の無駄遣い少しでもなくすことができるのではないかと思います。

本校の校長室で大山君が表彰を受けたときのようす



5 生徒会活動の取組

本校の生徒会は、本部、学習図書部、文化部、生活環境部、保体部、情報部からなり、生徒会の本部を中心に租税教育の取組を行ってきた。その中でも、年間を通して活動してきたのが、情報部による租税教育の放送である。

毎月2回程度、給食時間の校内放送で、税クイズを出題したり中学生の税に関する作文の優秀作品を朗読したりするなど取り組んできている。

租税教育の放送が始まると生徒は、放送に耳を傾けながら静かに聞き入ったりクイズが始まると意欲的に参加する姿も見られました。

租税教育の放送を始めた当初と比べると税に興味や関心をもつ生徒が増え、税に関する話題が多くなりました。



租税教育放送のようす



税クイズに答えている生徒のようす

《税クイズの一部》

これから租税教育の放送を始めます。今日は、税に関する3択クイズを出題します。
静かに放送を聴いて、クイズに参加してください。

第1問

1年間で市町村が行うごみ処理にかかる費用は、国民1人あたりおよそいくらでしょうか？（平成25年度）

【 ① 167円 ② 1,679円 ③ 16,791円 】

- ① 番の167円だと思ふ人は手を挙げてください。
- ② 番の1,679円だと思ふ人は手を挙げてください。
- ③ 番の16,791円だと思ふ人は手を挙げてください。

正解は、③番の16,791円です。全国のごみ処理費用の総額は2兆1,374億円です。平成25年に全国から排出されたごみの量は、およそ4,487万トンだったそうです。これは東京ドームの約121杯分にもなります。

第2問

税は、いつの時代からあったでしょうか？

【 ① 弥生時代 ② 飛鳥時代 ③ 鎌倉時代 】

- ① 番の弥生時代だと思ふ人は手を挙げてください。
- ② 番の飛鳥時代だと思ふ人は手を挙げてください。
- ③ 番の鎌倉時代だと思ふ人は手を挙げてください。

正解は①番の弥生時代です。三世紀に書かれた『魏志』倭人伝の邪馬台国に関する記述の中に「租税を収める倉庫がある。」とあり、それが、日本の税に関する最初の記録です。

《租税教育コーナーの設置》

租税に対する生徒の興味・関心を高めるために、「租税教育コーナー」の掲示板を立ち上げた。掲示板には、税に関する新聞記事を掲載したり、校内放送で流した税クイズを紹介したりするなど私たちにとって税金が身近な存在になるように取り組んだ。



租税教育に関する掲示コーナー

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 2年間の租税教育の取組を通して、租税に対する正しい知識と理解を深め、アンケート結果からも生徒の興味・関心を高めることができた。
- 税務署や法人会青年部と連携して租税教室を実施したり、夏休みに職員研修を行ったりすることができた。これらの取組を通して、生徒や職員が税の役割や重要性を認識する機会にすることができた。
- 社会科では、租税教育の視点で研究授業を行い、国語科では、税の作文に多くの生徒が応募できるように時間を設定するなど工夫した。これにより、職員が租税教育の研修を深めたり、生徒が税について意識を高めたりすることにつながった。
- 生徒会活動として租税教育の放送を定期的に行うことができた。

2 今後の課題

- 租税教育の取組が、社会科や国語科中心となっていたので、他教科でも具体的な授業実践が行えるように、さらなる連携を進めていきたい。
- 本校での租税教育の取組が、地域や家庭へ十分伝わっておらず、なかなか連携が難しかった。地域やPTAを巻き込んだ取組が必要である。
- 教師主導ではなく、生徒が自発的にアイデアを出しながら租税教育をさらに推進できるような取組にしていきたい。

V おわりに

平成28年度から2年間にわたり、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、「租税教育を通して、生徒が租税に対する正しい知識と理解を深め、興味・関心をもって主体的に取り組む態度を育成する。」を研究主題として取り組んできた。今回の取組を通して、生徒が税の役割や重要性に気づき、社会の一員として主体的に行動できる人間に成長してくれることを期待したい。

最後に、本校の租税教育の研究・実践にあたっては、肝属地区租税教育推進協議会をはじめ、鹿屋税務署、鹿屋肝属法人会青年部の方々には、たくさんの御協力をいただき、心から御礼申し上げます。